

事業完了報告書（実行団体）

| | |
|----------|---------------------|
| 事業名: | コロナ禍で日常生活を奪われた全ての人へ |
| 資金分配団体名: | 公益財団法人信頼資本財団 |
| 実行団体名: | 一般社団法人和音ねっと |
| 実施時期: | 2021年 5月～2022年 2月 |
| 事業対象地域: | 京都府京都市 |
| 事業対象者: | 子供からお年寄りまで |

Version 3.2
日付: 2022年2月1日

I. 事業概要

| | |
|--------|--|
| 事業実施概要 | コロナ禍における地域活動が制限される中、コロナにおける新たな社会的孤立が問題となっている。また、人間生きていく為に最低限必要な権利や保障が蔑ろにされる危機的状況である。特に弱い立場の人々へのしわ寄せは一段と増し、生きる希望も夢も語れる状況にない。特に公的支援に該当がボーダーであるがゆえに、「コロナ禍で日常生活を奪われた全ての人」への支援は必要不可欠であると思いから、①ひとり親家庭②コロナウイルス感染症による陽性者家族が入院や宿泊施設等で生活を余儀なくされ、残された家族の方々への支援（一時預かり宿泊保護事業・公的支援へ繋ぐ為の生活相談支援事業・食料支援等）に取り組みたい。 |
|--------|--|

II. 課題・事業設計の振り返り

| | |
|-------------------|--|
| 課題設定、事業設計に関する振り返り | 新型コロナウイルス感染症が始まった2年前よりも、今現在の方がより一層日常生活において全ての世代が生活困窮している。また、当初計画していたよりも想定を遥かに超え、多くの全世代に対する支援に対する要求の声を聞く事となった。Caféあずまの子ども食堂や学習支援等含めた居場所機能は、他の居場所では中々積み重ねる事が難しい、あらゆる世代との交流が生まれた事がきっかけで対話が始まり、お互い楽しいこと嬉しいこと辛いこと悩みごと等を話す事、みんなで一緒に子どもからお年寄りまで勉強したりご飯を作ったり、日常生活の延長線上にcaféあずまに通って来る人々が集まってくる。今回のミッションでは非常に困難を極めると想像していたが、いざ実行してみると、大人は子供に対して真正面から向き合い受け止めると、素直に表現する事が可能となるだけではなく、普段味わえないあらゆる世代との交流を通じて生活スキルを学ぶきっかけ作りになった事はこの事業を行った上においては有意義であった。また、食料支援や一時宿泊施設を抱き合わせで行った事で、現在抱える社会的課題（困窮するひとり親世帯・学生・障がい者・高齢者）に焦点を中てての事業は、今後も最重要課題であると同時に、他の団体との横の繋がりや連携等が必要である認識している。 |
|-------------------|--|

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

| ①受益者 | ②課題 | ③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット） | ④指標 | ⑤目標値・目標状態 | ⑥結果 | ⑦考察 |
|--------|------------|---|--------------------------|---|-------------------------|---|
| 子ども・学生 | 学習機会の不足/格差 | 学習支援活動。ひとり親家庭の子ども達の学びの保障（学習支援）コロナ禍で日常生活を奪われた全ての人へ、切れ目なく継続した支援が行える。 | 学習支援を開催した日数と参加した子ども達の人数 | ひとり親家庭の子供達を中心に利用人数は（延べ180人） | 参加した子ども達延べ294人 | 生活困窮する学生を学習支援に要員として投入した事は、自分達が抱えている苦勞は、生活困窮するひとり親家庭の実情と重なる部分があり、その事実をリアルに知り向き合えた事は学生にとっても学びの機会となり、お互いに苦勞していると実感できた子どもの学びにも繋がった。 |
| 子ども・学生 | 居場所の不足 | 子供食堂活動。子ども食堂に来る子供達へ、遊びや食事の提供支援を通じて、孤立を予防し、安全な居場所の提供。また、コロナ禍で日常生活を奪われた全ての人へ、切れ目なく継続した支援が行える。 | 子ども食堂を開催した日数と参加した子ども達の人数 | 6月より隔週日曜日の開催でスタート。（延べ360人利用） | 参加した子ども達延べ1066人 | 孤立しないさせない、いつでもあずまは皆の傍にある、安全な居場所、子ども達にとっても学生にとっても参加する大人達の、心の拠り所として前世代が集まる居場所になった。 |
| 生活困窮者 | 食料関連の不足 | 食料支援活動等。コロナ禍で生活が困窮する世帯に対しての食料支援。 | 食料支援を行った日数と配布した世帯数 | 6月より生活困窮しているひとり親世帯等含めた食料支援等を実施（延べ200世帯利用） | 配布した世帯数延べ2222人世帯（872世帯） | 子供からお年寄りまで、コロナ禍による生活困窮が深刻である事をあずまを拠点に知る事ができたと同時に個別の対話の中での社会的な課題が見えてきた。 |
| その他 | 居場所の不足 | 一時預かり保護事業活動 一時預かり保護事業利用者への支援。 | 利用した世帯数 | 利用した世帯数 | 延べ15世帯 | コロナ陽性者と濃厚接触者を分けるゾーニングの難しさは今回のミッションで調整する為には、PCR検査を行う事は必須であり、そのツールや行動指針についてはあったが、行政との調整等判断待ちの所もあり、今後の課題として考えて行く必要がある。 |

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

| | |
|----------------|--|
| 事業実施以降に目標とする状況 | ①子ども達への学習支援や遊びの場の提供＝経済的困窮の学生をアルバイトで雇い入れ、週1回からの学習支援をスタートし一年後までには週3回まで増やす。地域のコミュニティ作り（居場所）を拠点に、ひとり親家庭・学生・高齢者等への食料支援の実施。同時並行で子ども食堂の開催。（地域の学生や高齢者が一緒になって子ども食堂の運営に取り組む。）②継続した資金調達の為に、朝カフェ 昼カフェを一年後には週5回開けられるようになる。また、配食サービスに取り組む。 |
| 考察等 | コロナ禍においても感染対策を徹底しながら、子供からお年寄りまであらゆる世代が集まる居場所作りを、caféあずまを拠点に活動してきた。学習支援や子ども食堂・食料支援や一時宿泊支援など、地域の実情やその背景、課題なども含めて実験的な要素も大きかったが、事業開始とともにその内容や中身は、生活困窮課題として一連の社会的な問題であると核心に近づけた。また、地域の商店街・他の団体や障害者施設などとの協力関係を構築できた事は、今後のcaféあずまの運営を行う上では欠かせない存在である。今後は、環境を整えた事で、地域の実情に見合った居場所作りを行いながら、あずまに通ってくる仲間と共に、独自運営が継続できるようになりたい。 |

V. 活動

| 活動 | 進捗 | 概要 |
|--------|------|--|
| 学習支援活動 | 計画通り | 予想以上に学習支援を利用希望する子ども達が多い事に驚いたと同時に、学習の遅れに対する子ども達の学び直しを学習支援を通じて気が付かされた。 |
| 子供食堂活動 | 計画通り | 子ども食堂を通じて、コロナ禍以前からの生活困窮問題（目に見えない貧困）や、子ども達の発達問題など課題などを通じて知る事ができた。 |

| | | |
|-------------|------|--|
| 食料支援活動等 | 計画通り | 子供からお年寄りまで、コロナ禍による生活困窮が大変である事が食料支援を通じ、個々に対話中で、より一層深刻である状況が把握できた。引き続き、食料確保に向けて取り組みを地域や企業団体等に働きかけを行って行きたい。 |
| 一時預かり保護事業活動 | 計画通り | 一時宿泊施設については、当初予定していたよりも利用する方のマッチングのすり合わせに時間を要する事や、一回当たりの受け入れ人数が多すぎて、他機関と調整するなどの事を踏まえて、今後の対応方法としては他機関ともより密に連携を取る必要があると実感した。 |

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

| | |
|---------------------|------|
| 想定外のアウトカム、活動、波及効果など | 特になし |
|---------------------|------|

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

| | |
|-----------|---|
| 課題を取り巻く変化 | コロナ禍とは言え、予想以上にニーズが多い事に驚きと共に、全世代への貧困問題が深刻であると痛感している。コロナが収束しても根本的な生活課題はすぐに解決する事は難しい。この事業継続を次年度も行うに当たって、現在は、地域との関係作りや他の団体との連携、地元企業への働きかけを行っている。同時に、次年度の助成金申請等も開始。遺品整理等の事業などについては、不定期ながらも事業収入として大口の収益となる為、学習支援や子ども食堂の運営費には欠かせない事から、引き続き事業は継続して行く。地域の商店街とのコラボや障害者施設とのコラボ実現に向けて現在ミーティングを重ね具体的な話し合いを行いミッションに向け取り組んでいる。自助や共助だけでは解決できない課題も多く潜在化している事については、今後の活動において検証し、提言する活動は必要である。 |
|-----------|---|

VIII. 他団体との連携

| 連携先 | 実施内容・結果 |
|-----------|---|
| 北野商店街振興組合 | 商店街の活性化の取り組み イベントの協力 |
| 就労サポートきらら | 就労継続支援A型事業所との取り組み 定期的なあすなろドーナツの定期販売 子供と障がい者との販売活動 |
| | 2月末より、週1回の販売を4回に拡大。火曜日 水曜日 木曜日 土曜日（10：30～12：30）喫茶用のドーナツ販売をコーヒーとセットで販売。 |
| | あすなろドーナツより、あずままでの売り上げ分から20%を還元して貰う事になった。また、あずままでしか買えないあすなろドーナツを販売する方向で、 |
| | 子供と検討中。4月から学生をきららへ支援員としてアルバイトに雇い入れし、あずまの喫茶と販売体制を障がい者と2名体制で行う予定。 |

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

| | | 計画額 | 実績額 | 執行率 |
|-----|-------|------------|------------|--------|
| 事業費 | 直接事業費 | 9,777,950 | 9,835,000 | 100.6% |
| | 管理的経費 | 222,050 | 165,000 | 74.3% |
| 合計 | | 10,000,000 | 10,000,000 | 100.0% |

| | |
|------|--|
| 補足説明 | |
|------|--|

X. 広報実績

| 広報内容 | 内容 |
|-------------------------------|---|
| 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等） | <ul style="list-style-type: none"> ・京都新聞 ゴールデンウイーク子供食堂掲載 ・上京区在住 イラストレーター吉田ゆうすけさん Twitterで、子供食堂を紹介 ・GG物語で、caféあずま紹介 ・上京区社会福祉協議会・ウイングス京都・中京いきいき活動センターにて広報あり。 北野商店街にて、子供食堂のチラシを店舗で貼って下さる。 ・北野商店街からの依頼で、京都府子育て支援事業にcaféあずまを登録。 |
| 2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの | <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援&こども食堂（ゴールデンウイーク+夏休み） 2000枚 ・地域交流スペースcaféあずまチラシ2000枚 |
| 3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例） | チラシにシンボルマークを掲載。ホームページにシンボルマークを掲載。 |
| 4.報告書等 | 現在、報告書作成中。 |

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む) | 状況 | 内容 |
|---|---------|---|
| 1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 | 完了 | |
| 2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。 | | |
| 3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。 | 未公開 | 規定は作成しましたが、ホームページ等にアップを行う事ができていません。2月末までには公開。 |
| 4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 | 変更はなかった | |

| ②ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
|---|--|-------------------------------------|
| 1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。 | はい | |
| 2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 | はい | |
| 3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。 | いいえ | 規定は作成しましたが、ホームページ等にアップを行う事ができていません。 |
| 4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。 | はい | |
| 5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。 | はい | 法令順守、個人情報保護 |
| 6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可) | <input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 | 第三者評価機関による会計監査を実施予定。 |
| | <input type="checkbox"/> 内部監査 | |
| | <input type="checkbox"/> 実施予定はない | |
| 7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。 | いいえ | |
| 8. 内部通報制度は整備されていますか。 | はい | |

XII. その他

| 自由記述 |
|---|
| 報告書添付致します。正式な書物としては中身を削りますが、今回、関わった皆さんが書いて下さりましたので、そのままデーターとして添えます。 |